

大学陸上競技部における主務の役割に対する認知構造について

北館 貴史 粟木 一博

キーワード：大学スポーツ 運動部組織 管理運営 マネージャー 役割機能

Cognitive structure of the role and function of managers in university track and field clubs

Takashi Kitadate Kazuhiro Awaki

Abstract

This study aimed at clarifying roles and functions of competent managers of university track and field clubs in terms of (1) the differences in their designated positions in the club, (2) the size of enrolled members in their clubs, (3) the degrees of satisfaction of the members based on their enrolled grades and individual rankings, and (4) the school rankings in the Intercollegiate Track and Field Meeting in Tohoku District.

Questionnaires were administered to 20 competent managers and 927 members of the clubs at 20 colleges and universities. Responses were obtained from 13 managers and 335 members (males 243 and females 92). The questionnaire for the competent managers consisted of 15 items concerned with administrative management, roles and functions, and for the members of the clubs concerned with the evaluation of their manager on the same 15 items for the managers and 15 more on the ideal activities of their competent manager. The data were analyzed with AHP (analytic hierarchy process), which makes the quantitative calculation and comparison of the cognitive structure of the role functions of the competent managers possible.

From the study, it was clarified that the most important role and functions of the competent managers were "enrolling the Association of the University Track and Field" and "making an entry in intercollegiate meetings"; whereas "planning of activities" and "ordering necessary equipment and tools" were less recognized. It was suggested that, in the university track and field clubs, the competent managers were required to work for not only administratively managing their club but also to responsively pursue those important tasks related to meetings and events.

Key words : college sport student manager club management statistical analysis

I. 目的

大学の部活動は、中学校・高等学校と異なり、ほとんどが主務（広辞苑では主務とは「主としてその事務にあたる人」とある。）と呼ばれる学生によってその運営・管理が行われている。

広辞苑によるとマネージャーは「運動部では、選手の世話をする人」とある。山城（1977）は「マネジメントとはまさに一種のリーダーシップであり、マネジメントをしている者をマネージャーとよぶ。このマネージャーはまさに多様なリーダーシップをもって集団の個々のメンバー活動のゼネラルな効果を高め、集団として存在・維持・充実に努力する。」と述べている。

陸上競技部のマネージャーとは、前者の方の意味合いが強く、練習中の記録管理などといった仕事をしている。陸上競技部の主務は後者の方にあてはまり、部に関するマネジメントを行っている。そのため、本研究では大学陸上競技部におけるマネージャーと主務は違った役割を指すという立場をとる。

従来のリーダーシップ研究は、指導者や主将、またそれらとメンバーとの間の関係を対象とした研究が多数を占めている。部活動の管理についても、指導者や主将が対象の中心となるものが多い。しかし、部活動の運営・管理における主務を対象とした研究は見当たらなかった。

部の運営に関して主務は、Kotter（1999）が「計画立案、予算作成、組織化、人員配置、コントロール、そして問題解決を通して、既存のシステムの運営を続けること。」と述べているようなマネジメントを行っている。竹村（1980）は「集団成員の増加につれてほしいに組織化され、集団としての機能が高まり、より複雑になってくる。そして、成員間の相互作用や相互依存関係が成立し、集団の内部に成員の位置・役割などの文化が生じる」と述べている。主務となっている学生は自身の主務としての立場は十分理解しているが、部活動での主務の役割機能をどのように認知しているかが明らかにされていない。

そこで、本研究では主務に対する質問紙および部員に対する質問紙から主務の役割機能の構造を明らかにするとともに、①選手兼主務またはマネージャー兼主務という立場の違い②部員数の規模③学年別・個人成績別の満足度④東北インカレにおける対校戦順位という観点から、それぞれの主務の役割機能を明らかにすることを目的としている。

本研究では、部内での役職によって選手兼主務、マネージャー兼主務の二つのグループに分けている。そのため、それぞれのグループによって主務の役割機能が異なることが考えられる。選手兼主務においては、選手として活動しているため、選手に直接関わってくるような項目が

高くなると考えられる。マネージャー兼主務においては、もともと部に関する仕事を行っているため、部の運営・管理に関する項目が高くなると考えられる。

西岡ら（1976）は、「リーダーシップ行動は組織や集団の大きさによって、その効果に影響をうける」と述べている。本研究では、部員数の規模による主務の役割機能を調査した。その結果、規模の大きい部の主務の重みが高くなるため、部の規模に適した主務の役割機能が明らかになると考えられる。

学年別・競技成績別による満足度の役割機能については、それぞれ畑ら（2003）の研究のようにグループによって項目に違いが出てくるように考えられる。畑らの研究によれば、同じ部内における学年間または競技レベルでのリーダーシップ行動因子に差がみられ、対象集団に応じたリーダーシップ機能が明確になった。そのため、本研究においても学年間または競技レベル別において、主務の役割機能に違いが出てくるのが考えられる。

西田ら（1982）は高校軟式テニス部を対象として、部の強弱を規定する集団機能の分析を行った。その結果、男女ともに強いチームの方が部の運営・管理などがのぞましい状態であることが明らかになった。そのため、本研究でも東北インカレの対校戦の順位で比較することによって、上位校としてののぞましい主務の役割機能が明らかになると考えられる。

II. 方法

1. 対象

平成18年5月上旬までに東北学生陸上競技連盟に加盟している32大学中、登録者数が10名以上の条件を満たしている20大学において主務として東北学生陸上競技連盟に申請された学生20名と選手として東北学生陸上競技連盟に登録されている部員927名を対象とした。その内、13大学の主務と登録者数705名中335名（男243名、女92名）からの回答が得られた。

2. 質問紙

質問紙は主務と部員に対する2種類の質問紙を作成した。主務に対しての質問紙の内容は陸上競技部の運営・管理、主務の役割機能についてのものである。部員に対する質問紙の内容は主務の仕事に対する満足度についてのものである。

3. 分析方法

階層分析法（AHP）を使用する。AHPとはAnalytic Hierarchy Processのことをいい、1977年にT.L.Saatyによって始められた意思決定法である。

意思決定法は、人間の主観を最大限生かすことのでき

る手法である。この手法は、基準同士の比較・評価を人の主観に基づき、言葉を用いて行うため、どのような基準でも比較可能であり、それぞれの基準の重みを求めることができる。AHPの特徴はあらゆる問題に適用でき、価値判断を人間の感覚に頼らざるを得ない場合などに役立つことができる。個人によってそれぞれの価値基準にもとづいて意思決定を行うとき評価基準は複数あるのが普通であり、個人の趣向によって意思決定はそれぞれ異なってくる。そのためAHPを使用することによって、各大学の主務が自身の役割機能をどのように感じているかを導き出すことに適している分析方法だと考えられる。

AHPの手順は、(1)階層構造(2)一対比較(3)重みの計算の3点である。

(1) 階層構造

階層構造では、何をするかという目的を決定する。そして、最終的な選択の対象となるいくつかの代替案があり、目的と代替案の間に評価基準を設定し、目的-評価基準-代替案という階層構造を設定する。

本研究では、今回の階層構造の目的の部分には4つの基準に分類された主務の役割機能を明らかにすることができる。評価基準については、目的の4つの方法によって分類された各大学の主務があてはまる。代替案については、質問紙で使用している主務の役割機能15項目(①学連登録②大会エントリー③部の運営・管理④部費の管理⑤部のミーティング⑥主務のミーティング⑦部員への事務連絡⑧陸協との事務手続き⑨学連との事務連絡⑩部活用品の注文⑪宿泊・交通の斡旋⑫各申請書の提出⑬学連関係の会議出席⑭行動表の作成⑮記録管理)を設定する。

(2) 一対比較

階層構造を設定した後は、一対比較を行う。一対比較とは、代替案または評価基準を2つずつ取り上げて対とし、その対のどちらがどの程度重要かを比較・評価することである。今回の研究では、①基準の重みづけ(目的に照らして、評価基準の中でどれをどの程度重要視するか)②各基準からみた代替案を評価する(それぞれの評価基準からみて、どの代替案がどの程度好ましいかを比較する)、ことを行う。①では、目的に合わせて2校ずつ抜き出し重みづけ、②では、主務の役割機能15項目を2項目ずつ抜き出し重みづけを行う。

①の一対比較の方法としては、2校ずつ抜き出し目的に合わせて一対比較値(1、同じくらい・2、少し・3、かなり・4、うんと・5、圧倒的に)を用い一対比較を行う。例えば、AがBより「圧倒的によい」となったときには、A対Bは「5」となり、B対Aは逆数をとって「1/5」となる。今回の研究では、一対比較値の言葉の比較のところを、部員の規模においては部員数の差、部

員の満足度においては標準得点の差を用いて比較することとする。

②では、2項目(例としてAとB)を比較し(1、Aが重要だと思う・2、Aがやや重要だと思う・3、どちらでもない・4、Bがやや重要だと思う・5、Bが重要だと思う)という5件法で比較する。その際、一対比較値は(重要だと思う=3・やや重要だと思う=2・どちらでもない=1)とする。主務に対する質問紙を用いて例を挙げる。A大学の主務が15項目を一対比較する時、「学連登録」と「大会エントリー」を比較したとする。1と答えた場合、「学連登録」を重要だと思うとしたため、「学連登録」対「大会エントリー」は「3」となり、「大会エントリー」対「学連登録」はその逆数をとって「1/3」となる。

(3) 重みの計算

一対比較した後に、重みの計算を行う。重みの計算では幾何平均法を使用する。幾何平均法とは、一対比較値の平均値とする方法である。評価基準、代替案それぞれを一対比較し幾何平均法によって出された重みを、加重和によって計算し目的に合わせた総合評価値を求める。

重みを計算することによって、それぞれの評価基準・代替案の各項目をどのように重要に感じているかを数字にあらわして導き出すことができる。そして、目的に適して評価基準・代替案の重みを使用することによって場面に応じた主務の役割機能を明らかにすることができる。

部員の規模による主務の役割機能を例として挙げる。まずは評価基準で出された一対比較値を13大学分それぞれの積を求める。「A大学」の積が 2.4×10^8 だとする。次に 2.4×10^8 をn乗根し、幾何平均値を求める。一対比較値をもとに各大学の幾何平均を求める。これは、

$$\bar{x}_G = \left(\prod_{i=1}^n x_i \right)^{\frac{1}{n}}$$

で求められる。この値をもとに、各大学の幾何平均値を13大学の幾何平均値の合計で割り「重み」を求める。代替案についても同様に幾何平均値を求め、重みを求める。

次に評価基準の重みと代替案の重みを掛け合う。13大学の評価基準の重みと15項目の代替案の重みとを掛け合い、その後15項目の合計値が総合評価値となって求められる。

Ⅲ. 結果

1. 部内での役職による役割機能

目的として、部内での役職によって選手兼主務とマネージャー兼主務の2つのグループに分け、各15項目の代替案の合計値を求め、図1に示した。

(1) 選手兼主務の役割機能について

選手兼主務のグループは、A大学・B大学・E大学・F大学・H大学・J大学・K大学・L大学の8大学となった。

「学連登録」・「大会エントリー」の項目で高い重みとなり、重要視されている項目となった。その他に、「宿泊・交通の斡旋」・「各申請書の提出」で高い重みとなり、重要としている項目となった。「行動表の作成」・「部費の管理」で低い重みとなり、重要としている項目となった。

(2) マネージャー兼主務の役割機能について

マネージャー兼主務のグループは、C大学・D大学・G大学・I大学・M大学の5大学となった。

ここでも、「学連登録」・「大会エントリー」の項目で高い重みとなり重要視されている項目となった。その他に「部費の管理」が高い重みとなり、重要としている項目となった。「行動表の作成」・「部活用品の注文」が低い重みとなり、重要としていない項目となった。

二つのグラフを比較すると、選手兼主務ではマネージャー兼主務よりも「学連との事務連絡」・「部活用品の注文」・「宿泊・交通の斡旋」・「学連関係の会議出席」・「記録管理」が高い重みとなり選手兼主務が重要としている項目となった。反対にマネージャー兼主務では、「部費の管理」が選手兼主務よりも高い重みとなりマネ

ジャー兼主務が重要としている項目となった。

2. 部員の規模による役割機能

次に目的を各大学の部員数についての主務の役割機能、評価基準に13大学、代替案に主務の役割機能の15項目を設定して、部員数についての主務の役割機能の総合評価値を求め、図2に示した。

「学連登録」・「大会エントリー」の項目で高い重みとなり重要とされている項目となった。低い重みとなったのは、「行動表の作成」・「記録管理」・「部活用品の注文」となり、重要とされていない項目となった。

(1) 1・2年生の満足度による主務の役割機能

「学連登録」・「大会エントリー」の項目で高い重みとなり重要視されている項目となった。また、その他の目的の場合と比べると、「宿泊・交通の斡旋」・「各申請書の提出」が高い重みとなって求められたため、重要とされている項目となった。反対に低い重みは「行動表の作成」となり、重要視されていない項目となった。

(2) 3・4年生の満足度による主務の役割機能

「学連登録」・「大会エントリー」の項目で高い重みとなり重要視されている項目となった。3・4年生の場合は、「各申請書の提出」のほかに「部員への事務連絡」が高い重みとなり、重要とされている項目となった。

1・2年生と3・4年生の学年間の満足度で比較してみると次のような結果となった。1・2年生では「宿泊・交通の斡旋」の方が、3・4年生では「学連登録」・「大会エントリー」・「部費の管理」の方が高い重みとなって表れた。その他の項目ではほぼ同様な数値となった。

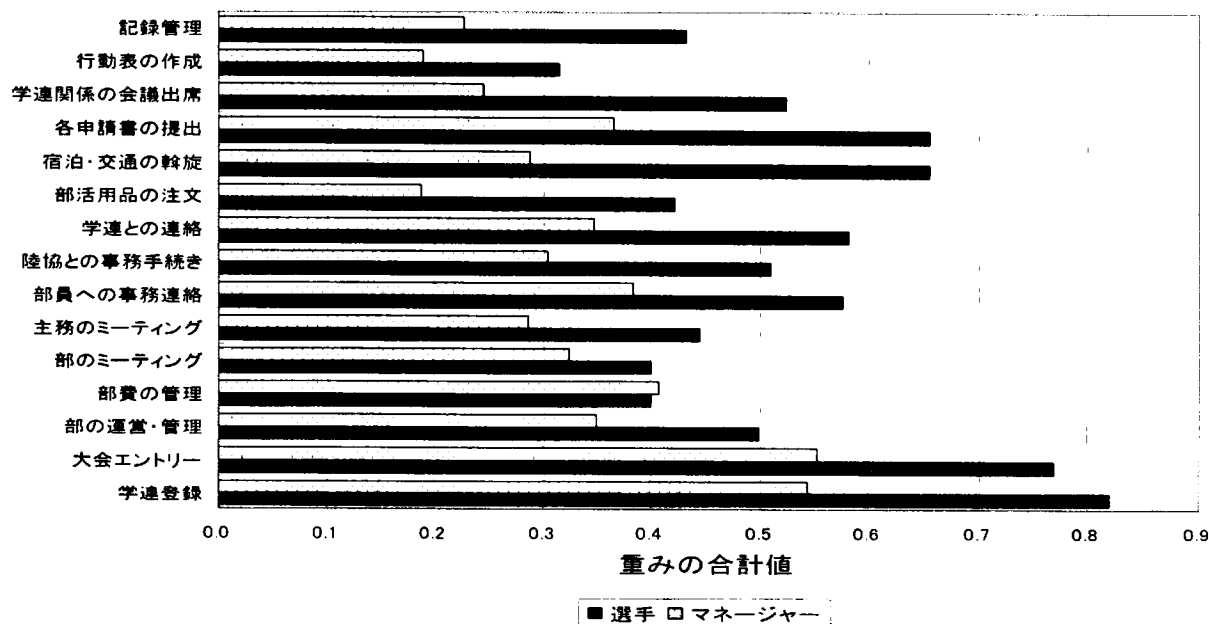


図1 部内の役職における役割機能

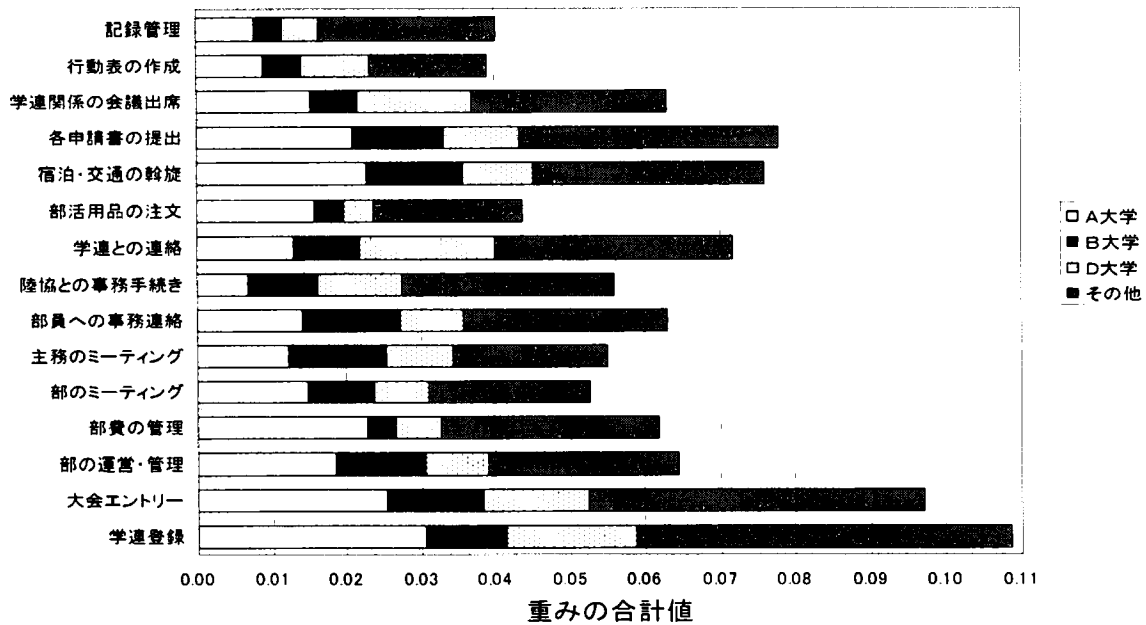


図2 部員の規模による役割機能

3. 学年別の満足度による役割機能

次に目的を学年別の満足度についての主務の役割機能、評価基準に13大学、代替案に主務の役割機能の15項目を設定した。学年別の分け方は、1・2年生と3・4年生の2つのグループに分けて、部員の満足度についての主務の役割機能の総合評価値を求め、図3に示した。

(1) 1・2年生の満足度による主務の役割機能

「学連登録」・「大会エントリー」の項目で高い重みとなり重要視されている項目となった。また、その他の目的の場合と比べると、「宿泊・交通の斡旋」・「各申請

書の提出」が高い重みとなって求められたため、重要とされている項目となった。反対に低い重みは「行動表の作成」となり、重要視されていない項目となった。

(2) 3・4年生の満足度による主務の役割機能

「学連登録」・「大会エントリー」の項目で高い重みとなり重要視されている項目となった。3・4年生の場合は、「各申請書の提出」のほかに「部員への事務連絡」が高い重みとなり、重要とされている項目となった。

「行動表の作成」の他に、「部活用品の注文」が低い重みとなり重要とされていない項目となった。

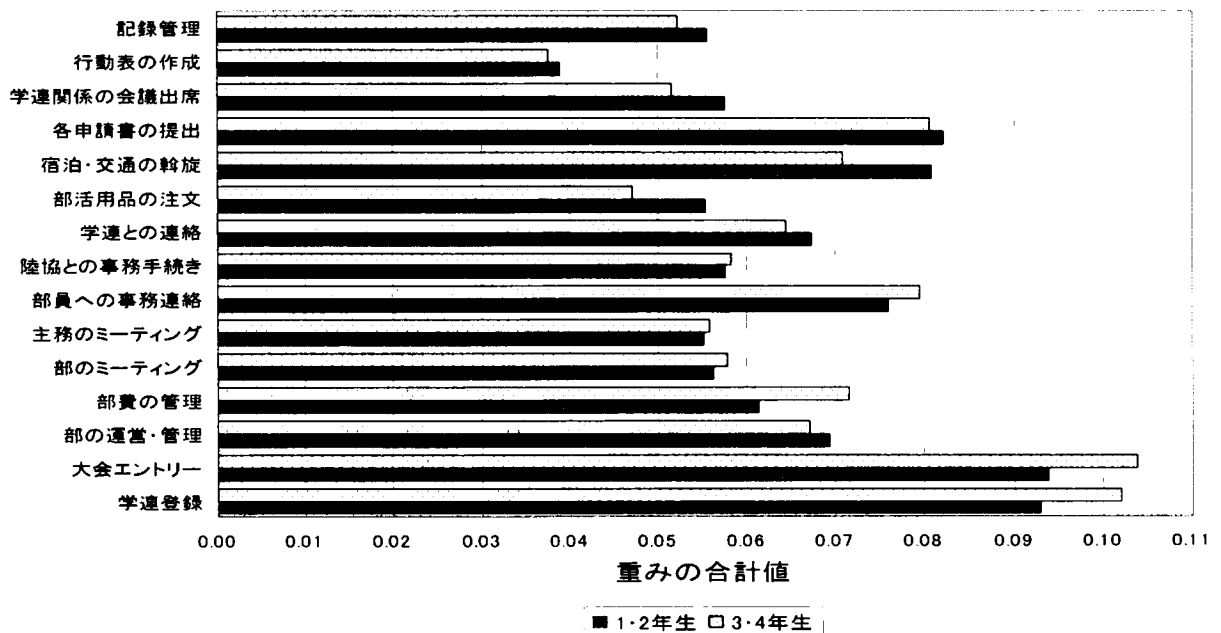


図3 学年間の満足度による役割機能

1・2年生と3・4年生の学年間の満足度で比較してみると次のような結果となった。1・2年生では「宿泊・交通の斡旋」の方が、3・4年生では「学連登録」・「大会エントリー」・「部費の管理」の方が高い重みとなって表れた。その他の項目ではほぼ同じような数値となった。

次に目的を競技成績別の満足度についての主務の役割機能、評価基準に13大学、代替案に主務の役割機能の

15項目を設定した。競技成績別の分け方は、①全国大会ベスト8又は全国大会出場と②東北大会ベスト8又は東北大会出場又はその他の2つのグループに分けて、競技成績別の満足度についての主務の役割機能の総合評価値を求め、図4に示した。2つのグループに分けることのできる大学は、A大学・C大学・D大学・E大学・F大学・G大学・J大学・L大学・M大学の9大学となった。

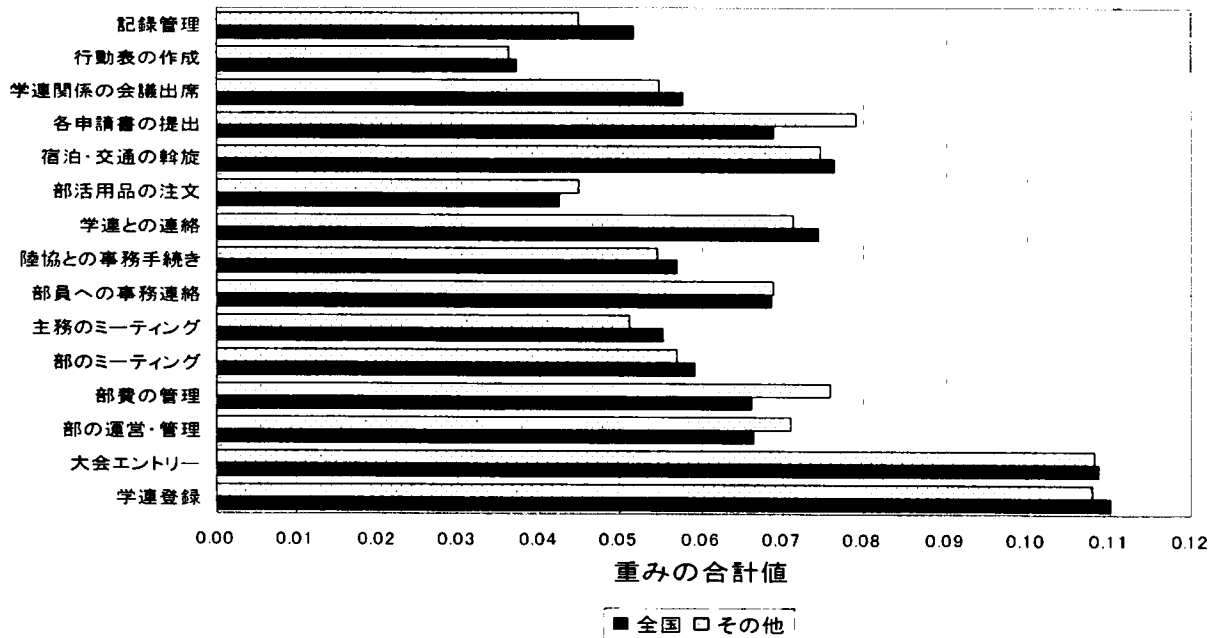


図4 競技成績別の満足度による役割機能

5. 競技成績別の満足度による役割機能

(1) 全国大会出場者の満足度による主務の役割機能

「学連登録」・「大会エントリー」の項目で高い重みとなり重要視されている項目となった。その他の目的の場合と比べると、「学連との事務連絡」が高い重みとなり、重要な項目となった。「行動表の作成」の他に「部活用品の注文」が低い重みとなり、重要とされていない項目となった。

(2) 東北大会経験またはその他の部員の満足度による主務の役割機能

「学連登録」・「大会エントリー」の項目で高い重みとなり重要視されている項目となった。その他に、「部費の管理」・「各申請書の提出」が高い重みとなり重要な項目となった。全国大会出場経験の満足度と同様に、「行動表の作成」の他に「部活用品の注文」が低い重みとなり、重要としていない項目となった。

全国大会出場者と東北大会出場者またはその他の部員の満足度で比較してみると次のような結果となった。全国大会出場者では「記録管理」の方が、東北大会出場者またはその他の部員では「部費の管理」・「各申請書の提出」の方が高い重みとなり、重要としている項

目となった。その他の項目ではほぼ同じような重みとなった。

6. 東北インカレの対校戦成績による役割機能

次に目的を東北インカレの対校戦成績による主務の役割機能、評価基準に13大学、代替案に主務の役割機能の15項目を設定した。東北インカレの対校戦成績によって主務の役割機能の総合評価値を求め、図5に示した。

「学連登録」・「大会エントリー」の項目で高い重みとなり重要視されている項目となった。また、他の目的の場合と比べて、「部の運営・管理」・「部員への事務連絡」が高い重みとなり、重要視されている項目となった。低い重みは、「行動表の作成」・「記録管理」・「部活用品の注文」となり、重要とされていない項目となった。

「学連登録」・「大会エントリー」が高く、「行動表の作成」が低い共通の項目も見うけられた。一方では、上記のように重みの高低が逆となる項目もあった。これは、部内の役職における選手またはマネージャーの視点から役割機能を選択したため、それぞれの項目に違いが出たと考えられる。そのため、選手兼主務・マネージャー兼主務では異なる役割構造が示されている。

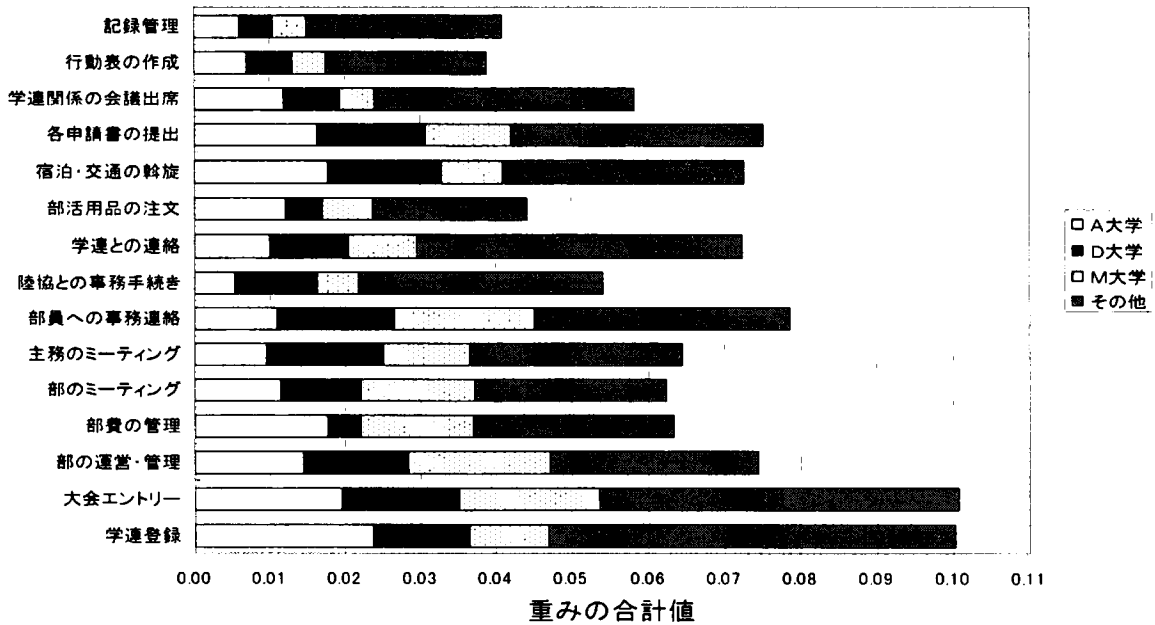


図5 東北インカレ対校戦績による役割機能

IV. 考察

1. 部内での役職による役割機能

本研究では、選手兼主務・マネージャー兼主務の役割機能について次のような仮説を立てた。選手兼主務では選手に直接関わってくるような項目（大会エントリー、宿泊・交通の斡旋）が高くなるとし、マネージャー兼主務では、もともと部に関する仕事を行っているため、部の運営・管理に関する項目（部の運営・管理、部費の管理、部員への事務連絡）が高くなるとした。

選手兼主務では「学連登録」・「大会エントリー」の他に、「宿泊・交通の斡旋」・「各申請書の提出」が高い項目となった。一方、「行動表の作成」・「部費の管理」・「部のミーティング」が低い項目となった。

マネージャー兼主務では、「大会エントリー」・「学連登録」・「部費の管理」で高い項目となった。一方、「部活用品の注文」・「行動表の作成」が低い項目となった。

「宿泊・交通の斡旋」に関しては、選手兼主務が高く、マネージャー兼主務が低く重みづけ、「部費の管理」については、マネージャー兼主務が高く、選手兼主務は低く重みづけられる結果となった。

2. 部員の規模による主務の役割機能

規模の大きい部の主務の重みづけが高くなるため、部の規模の大きさにのぞましい主務の役割機能が明らかになるものと考えられる。

部員の規模による一対比較を行った結果、部員数の多い部の主務の項目が高く重みづけられるため、各項目で部員数の多い部の主務の得点が高く反映された。「学連登

録」・「大会エントリー」と高い項目となった他に、「学連との事務連絡」・「部の運営・管理」・「宿泊の交通・斡旋」でも高い項目となった。低い項目については、「部活用品の注文」・「行動表の作成」・「記録管理」となった。

「部の運営・管理」や「宿泊・交通の斡旋」が高く重みづけをされた結果として以下のことが考えられる。「部の運営・管理」では、部員が多くなれば競技種目によってグループが分かれるために、それら部の全体を把握するために高くなったと考えられる。また「宿泊・交通の斡旋」については、大勢の部員を一つにまとめあげて行動するために重要な項目として重みづけられたと考えられる。

以上のように、部の規模の大きな主務は部全体のことを考えて行動する役割機能が重要視されると考えられる。

3. 学年別・競技成績別の満足度による主務の役割機能

(1) 学年別の満足度による主務の役割機能

1・2年生の満足度においては、「学連登録」・「大会エントリー」・「各申請書の提出」が高い項目となった。一方、低い項目となったのは「行動表の作成」となった。

3・4年生の満足度においては、1・2年生の3項目の他に「部員への事務連絡」が高い項目となった。低い項目となったのは、1・2年生と同様に「行動表の作成」となった。

1・2年生と3・4年生で項目を比較してみると、「宿泊・交通の斡旋」では1・2年生が高く、「学連登録」・「大会エントリー」・「部費の管理」では3・4年

生が高く重みづけされた。

学年間の満足度では、部の運営・管理に対して全体的な項目を重視されている役割機能だと考えられる。

(2) 競技成績別の満足度による主務の役割機能

全国大会経験者の満足度では、「学連登録」・「大会エントリー」・「宿泊・交通の斡旋」・「学連との事務連絡」で高い項目となった。一方では、「行動表の作成」・「部活用品の注文」で低い項目となった。

東北大会経験者・その他の部員の満足度では、「学連登録」・「大会エントリー」・「各申請書の提出」・「部費の管理」と高い項目となった。低い項目となったのは、「行動表の作成」であった。

競技成績間で比較すると、全国大会経験者で「記録管理」が高く、東北大会・その他では「各申請書の提出」・「部費の管理」が高く重みづけられた。

2つを比べてみると、全国大会経験者では、東北大会経験者またはその他の部員よりも大会に関する項目が高く重みづけられた。東北大会経験者またはその他の部員では部の運営・管理に関する項目が高い重みとなり重要視されている項目となった。そのため、全国大会経験者では大会関係の項目を重視している役割機能だと考えられる。また、東北大会経験者またはその他の部員においては、部の運営・管理に関する項目を重視している役割機能だと考えられる。

4. 東北インカレ対校戦成績による主務の役割機能

東北インカレ対校戦成績で上位の部の主務の重みづけが高くなるため、上位校としてののぞましい主務の役割機能が明らかになるものと考えられる。

東北インカレ対校戦成績による一対比較を行った結果、上位校による主務の項目が高く重みづけされるため、各項目で上位校の部の主務の得点が高く反映された。

「学連登録」・「大会エントリー」・「部員への事務連絡」・「部の運営・管理」で高い項目となった。低い項目となったのは、「行動表の作成」・「記録管理」となった。

今回は、他の項目においても高く重みづけされているものが数項目あった。そのため、東北インカレ上位校の主務は多数の項目を重要視している役割機能だと考えられる。

V. 参考文献

畑 攻・柴田雅貴・塚本正仁・杉山歌奈子 (2003) チームスポーツ系運動部におけるコーチのリーダーシップに関する基礎的研究. 日本女子体育大学紀要, 34:41 - 47

コッター：黒田由貴子監訳 (1999) リーダーシップ論.

ダイヤモンド社：< John P. Kotter (1999) on What Leaders Really Do : Harvard Business School Press >

永嶋正俊 (1985) チームスポーツの管理とリーダーシップ. 体育の科学, 35 (2) : 91 - 95

新村 出 (1998) 広辞苑. 岩波書店

西田豊明・石井源信 (1982) 運動部の強弱を規定する集団機能の分析—高校軟式テニス部を対象として—.

日本体育大学紀要, 11 : 27 - 36

西岡忠義・西側明和著 (1976) リーダーシップの心理学. 大日本図書：東京, 57

高萩栄一郎・中島信之共著 (2005) Excelで学ぶAHP入門. オーム社

竹村 昭 (1980) 運動部集団の構造と機能. 体育の科学, 30 (10) : 731 - 735

山城 章 (1977) 経営学. 白桃書房：東京, 139 - 160